

1 自己評価及び外部評価結果(1ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700075		
法人名	株式会社 メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホーム いわむらの憩(1F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町若宮730-2		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	別添の基本情報をご覧ください。
----------	-----------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いわむらの憩は、町の中にあり、地域の方とのふれあいし易い環境にあって御利用者様には、地域の一員として季節行事に参加されたり、交流会をしたりと地域になじみやすいような取り組みを積極的に取り入れている。又職員の質の向上を目指し、講演・勉強会・ヘルパー2級取得など様々な方面からの取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の子育て支援施設とは子供達がホームを訪問する交流のみならず、その施設からホームへ意見をもらう関係作りもできている。自治会からのホームへの要望等を積極的に取り入れ、連携して市へ提言し実現している。又、地域住民と触れ合う機会も多く、要望には迅速に対応している。幅広い年代の職員は、研修や他事業所を訪問する機会を得て、自らのサービスの質向上に積極的に取り組んでいる。入居者、家族、職員が意見を出し易い仕組みを工夫し、入居者の尊厳を大切にして、生活の質の向上に結び付ける支援をしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とした日々の介護を実践するよう会議等で話し合っている。又、申し送り前に、理念を唱和している。	地域の特性を考慮した理念の実践に向け、地域密着型事業所として具体的に何が行えるかを全員で話し合っている。日々のケアの中で常に理念を意識し、笑顔を絶やさないう心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホールを貸し出して、一緒に救命救急法を学んだり、又、地域の方が気軽に立ち寄り頂けるような雰囲気作りをしている。	地域の子育て支援施設と日常的に交流している。近隣住民の意見には丁寧に対応し、ホームでAED講習を共に行う等している。気付かない間に外出した入居者が地域の人からの協力で無事に帰ることが出来た。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを受け入れ、これからの介護現場での担い手の育成に活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組み状況等について報告し、地域の方、家族さんからの意見を聞きサービス向上に活かしている。	会議の意見で分かりやすい案内看板を設置したり、個人別来客者カードを作っている。消火栓やカーブミラーの設置等、出席者の協力を得て市に要請し、実現できた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する介護サービス調整会議などに参加し、情報交換して連携を図っている。	障害福祉制度の利用等について、市と連携を取っている。外部講師を招いての講習会開催の希望などを市町村担当者に伝える取り組みもしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で身体拘束廃止に力を入れ、廃止委員会を作り、毎月身体拘束についての話し合いをしている。	ベッドから転落の危険がある入居者について、鈴やセンサー等の対応をしたが予防が困難で、現在は家族の同意を得て就寝中のみベッド柵を設置している。会議を開く度に、他の方法がないか見直しを重ねている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、介護での心得5か条を元に、日々の介護をするようしている。又虐待が見逃されることが無いよう外部者に入ってもらう管理体制づくりもしている。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で研修を受けたものが中心となり、理解と活用が出来る様取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点が無いか尋ね利用者や家族が理解・納得されるまで話し合いをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見要望を言しやすいようにこちらから聞くようにしたり、相談員や外部者に入っただき意見が出易いようにしている。	外部の生活相談員を通して利用者の意見を聞いている。家族が言い易い雰囲気を作り個別に意見を聞いたり、利用者や相性の良い職員を通して話し合うなどの工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で職員の要望・意見を聞きまとめ、管理者会議に上げている。	同一法人の他事業所の管理者が順次訪問し、職員に個別に意見を聞いている。又、月に1回のミーティングでリーダーが意見や要望を聞き、管理者に伝えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に合わせての手当てや、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や段階に合わせての研修を選択し、対象者を積極的に受けよう働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設訪問をする機会や一緒に研修をするなどをして、お互いのいい所、悪いところ等出し合いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い思いが出やすい環境を作り、共感的な態度で、本人を求めていることや、不安を理解するよう勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と一緒に事前面談を必ず行い、思いが出やすい環境に努めている。時として、本人と部屋を別にする等の配慮をし、ゆっくり聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の思いを確認し、安心して利用できるよう早急に出来る限りの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきたことや、出来ることを、職員が教わる場面や敬う場面を多く持ち、一方ではない関係を心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の思いを踏まえて、本人の気持ち言葉を伝えながら、家族でしかできないことは、協力して頂く様に、連携をとっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。	信仰が厚く以前から参拝していた入居者は、職員と共に近くの神社へ毎朝でかけている。馴染みの理美容院へ車椅子で出かけた時、携帯電話の利用を手伝い、遠方の家族との交流が継続できる支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人の把握をし、より良い関係を築けるように職員が間に入り支援している。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、支援できることがあれば相談していただきたい意思是家族に伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、思いが表出しやすい環境を整え、受け止めるよう努めている。	思いや意向の把握が難しい人には、表情や手の動きで思いを汲み取るよう努め、十分に声かけし注意深く対応している。又、入浴時など個別に思いが表出し易い機会を捉えて受け止めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんとの会話や家族の方からのお言葉を元に把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようケア会議などで話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人家族の方から希望、要望思いを聞き介護計画に取り入れるよう努めている。	家族と話し合い希望を介護計画に取り入れている。職員が本人に解かり易い表現で説明して思いを汲み取り、計画に反映している。急な変更時は家族に連絡し説明して意見を聞いている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務や会議の中で気づきや工夫を言い合い共有し、それを元に介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応は、本人家族の希望を踏まえ柔軟に対応している。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し近隣の方などの理解も得られ周辺情報など情報交換が出来つつある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家人の希望に応じて対応している。又、報告相談が出来る様な連携をとっている。	かかりつけ医受診時は家族に情報提供している。家族の付き添いが困難な時はホーム看護師が同行している。結果は提携医に報告し、薬の変更等は青字で書き込みファイルに綴じて、職員へ周知徹底している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に健康管理を行っている。又、常に報告相談出来るような連携をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に病院関係者との話し合いを設け、早期退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度家族の希望、要望を確認し記録に残すことで、職員一同理解に努めている。	家族とは入居時に話し合い、重度化に伴いその都度繰り返し話し合っている。職員と管理者は十分に話し合い、24時間体制の医師、看護師の協力のもと看取りも行った。家族の泊りにも対応でき、最期にホームから去る時には職員と入居者が見送っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施したり、マニュアルを作成して、実践力が身につくようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練・対策は行っているが、地震等の災害の訓練・対策は行っていない。現状である。地域との連携も今後協力体制を検討していく。	年に2回、全職員が参加して災害訓練を実施している。夜間を想定した訓練を行い、駆けつける職員の到着時間を測る等、万一に備えてはいるが、地域との協力体制を構築するまでには至っていない。	予期できない災害に対して、近隣住民と連携した災害訓練や緊急時連絡網の整備を含め、運営推進会議等を活用した協力体制を早急を実現することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りや自尊心を傷つけないよう、言葉かけに注意し介護に当たっている。会議等でも議題に挙げ話し合っている。	排泄に関する言葉掛けをはじめ、昼間使用しないポータブルトイレは布で覆い、直接眼に触れない等の配慮をしている。年長者の誇りへの心遣いや清拭での同性介助など、人格を尊重した対応を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず、利用者本人に意思決定してもらえる様な、声掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、本人のやりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着ているのかを選んで頂いたり、外出時は帽子や上着などお洒落をして、楽しんで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間のメニュー表を見ながら献立について会話をしたり、利用者に応じて食事の準備を手伝ってもらったり、食器の後片付けを職員と一緒にしている。	もやしの根取り、食後の食器拭き等、その人の力に応じて下ごしらえや後片付け等を職員と共に行っている。スプーンですくい易いよう麺を短く切ったり、嫌いな食べ物はメニューを変更する等、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせて出し、栄養士による献立表にて食事を作っている食事量、水分量は一人ひとりチェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨いたりケアを出来る方は、声掛けし見守り、出来ない方には、毎食後ケアや一部介助を行っている。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のわからない利用者にも時間を見ながら声掛けをしてトイレ誘導を行いリハビリやパットの使用量を減らしていける様支援している。	排泄チェック表を活用した声掛け・誘導によって、紙おむつやパットの使用量を減らしている。家族からの希望や新しい製品を取り入れ、トイレで排泄する回数を増やし自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便を確認し、個々の状態に応じ下剤や座薬を使用したり、出にくい方には牛乳や冷たい水を飲んで頂いたり、便秘にならない様に心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている。利用者のその日の気分やタイミングを合わせながら入浴できるよう支援している。	ユニットごとに入浴日が異なっている事を利用して、希望の日に対応した入浴をしている。1時間かけて楽しむ人や、職員とゆっくり話し合える時間として楽しんでいる人もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく寝る事が無い様に活動を促しているが、体調や、本人の希望を考慮し休んで頂く様対応している。夜、寝付けない時には、お話をしたり、お茶を一緒に飲んだりする等対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更があったり、状態の変化がある時には、しっかり記録し、申し送り等で連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴など把握し一人ひとり出来る事をお願いしたり、神社参り等日課にしていることをできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、本人の体調に応じて散歩をしたり、家族にも協力してもらい、外出・外食等を行っている。	本人の希望で、毎日近くの神社を参拝し、天気の良い日には町内の散歩や喫茶店へ行っている。家族と寺へ墓参りに行く人もいる。職員は住民の理解・協力を得てホームの車を駐車させてもらい、地域の祭りを入居者が楽しめる支援をしている。	

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布や現金等は本人・家族の同意のもと金庫に預かっている。本人の要求に応じて財布を渡している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など利用者の希望に応じて対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りをつけをしたり、花を生けたり、地域のお祭りのポスターなどを貼ったりしている。	縁起物の熊手や季節の花を飾っている。床に足が届きにくい人には牛乳パック等で足置きを手作りし、健康を気遣う工夫をしている。2階ユニットのイスの移動音が階下に聞こえないようテニスボールを利用してイスの脚にキャップを付けるなど、音にも配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	違うユニットに行き、気の合った方とお茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などを家族に理解、協力を得て、家から馴染みの物を持って来て頂いている。	テレビやプラスチック製下着入れ、家族写真、ぬいぐるみ、化粧ケース等が居室にあるが、使い慣れた家具といえば筆筒があるくらいである。その人の時代の家具や、これまでの生活暦が感じられる物品が少ない。	その人が元気に活躍してきた時代とつながり、温もりのあるその人らしさが感じられる、居心地良い居室が作られる事を希望したい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしたりして環境整備に努める様にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果 (2ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700075		
法人名	株式会社 メディカルコーポレーション		
事業所名	グループホーム いわむらの憩(2F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町若宮730-2		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本とした日々の介護を実践するよう会議等で話し合っている。又、申し送り前に、理念を唱和している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ホールを貸し出して、一緒に救命救急法を学んだり、又、地域の方が気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りをしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験などを受け入れ、これからの介護現場での担い手の育成に活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組み状況等について報告し、地域の方、家族さんからの意見を聞きサービス向上に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する介護サービス調整会議などに参加し、情報交換して連携を図っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で身体拘束廃止に力を入れ、廃止委員会を作り、毎月身体拘束についての話し合いをしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、介護での心得5か条を元に、日々の介護をするようしている。又虐待が見逃されることが無いよう外部者に入ってもらう管理体制づくりもしている。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で研修を受けたものが中心となり、理解と活用が出来る様取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点が無いか尋ね利用者や家族が理解・納得されるまで話し合いをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見要望を言いやすいようにこちらから聞くようにしたり、相談員や外部者に入ってもらい意見が出やすいようにしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で職員の要望・意見を聞きまとめ、管理者会議に上げている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に合わせての手当てや、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や段階に合わせての研修を選択し、対象者を積極的に受けもらうよう働きかけている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設訪問をする機会や一緒に研修をするなどをして、お互いのいい所、悪いところ等出し合いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い思いが出やすい環境を作り、共感的な態度で、本人を求めていることや、不安を理解するよう勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と一緒に事前面談を必ず行い、思いが出やすい環境に努めている。時として、本人と部屋を別にする等の配慮をし、ゆっくり聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の思いを確認し、安心して利用できるよう早急に出来る限りの対応をしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきたことや、出来ることを、職員が教わる場面や敬う場面を多く持ち、一方ではない関係を心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の思いを踏まえて、本人の気持ち言葉を伝えながら、家族でしかできないことは、協力して頂く様に、連携をとっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人の把握をし、より良い関係を築けるように職員が間に入り支援している。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、支援できることがあれば相談してくださいの意は家族に伝えている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、思いが表出しやすい環境を整え、受け止めるよう努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんとの会話や家族の方からのお言葉を元に把握できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようケア会議などで話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人家族の方から希望、要望を聞き介護計画に取り入れるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務や会議の中で気づきや工夫を言い合い共有し、それを元に介護計画を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応は、本人家族の希望を踏まえ柔軟に対応している。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し近隣の方などの理解も得られ周辺情報など情報交換が出来つつある。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家人の希望に応じて対応している。又、報告相談が出来る様な連携をとっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に健康管理を行っている。又、常に報告相談出来るような連携をとっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に病院関係者との話し合いを設け、早期退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度家族の希望、要望を確認し記録に残すことで、職員一同理解に努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を実施したり、マニュアルを作成して、実践力が身につくようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の訓練・対策は行っているが、地震等の災害の訓練・対策は行っていない。現状である。地域との連携も今後協力体制を検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りや自尊心を傷つけないよう、言葉がけに注意し介護に当たっている。会議等でも議題に挙げ話し合っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めたりせず、利用者本人に意思決定してもらえる様な、声掛けを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、本人のやりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着ているのかを選んで頂いたり、外出時は帽子や上着などお洒落をして、楽しんで頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間のメニュー表を見ながら献立について会話をしたり、利用者に応じて食事の準備を手伝ってもらったり、食器の後片付けを職員と一緒にしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせて出し、栄養士による献立表にて食事を作っている食事量、水分量は一人ひとりチェックしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で磨いたりケアを出来る方は、声掛けし見守り、出来ない方には、毎食後ケアや一部介助を行っている。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄のわからない利用者にも時間を見ながら声掛けをしてトイレ誘導を行いリハパンやパットの使用量を減らしていける様支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便を確認し、個々の状態に応じ下剤や座薬を使用したり、出にくい方には牛乳や冷たい水を飲んで頂いたり、便秘にならない様に心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている。利用者のその日の気分やタイミングを合わせながら入浴できるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく寝る事が無い様に活動を促しているが、体調や、本人の希望を考慮し休んで頂く様対応している。夜、寝付け無い時には、お話をしたり、お茶を一緒に飲んだりする等対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更があったり、状態の変化がある時には、しっかり記録し、申し送り等で連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴など把握し一人ひとり出来る事をお願いしたり、神社参り等日課にしていることをできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、本人の体調に応じて散歩をしたり、家族にも協力してもらい、外出・外食等を行っている。		

グループホーム いわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布や現金等は本人・家族の同意のもと金庫に預かっている。本人の要求に応じて財布を渡している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙など利用者の希望に応じて対応している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに飾りをつけをしたり、花を生けたり、地域のお祭りのポスターなどを貼ったりしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>違うユニットに行き、気の合った方とお茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を使用する事での利点などを家族に理解、協力を得て、家から馴染みの物を持って来て頂いている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしたりして環境整備に努める様にしている。</p>		